

# こだわりの道

JA鹿本には園芸・果樹・普通作など様々な部会があり、「夢大地」ブランド確立に向け品質・生産技術向上に努めています。部会では試行錯誤して毎年様々な取り組みを実践しています。

## ～みかん部会デコポン専門部の取り組み～

樹は実をつけはじめて約15年で植え替え時期を迎えます。不知火を植える時は2種類の木を掛け合わせなければ栽培することができません。台木でそこに穂木を挿して初めて不知火の木となります。



JA管内で栽培されている不知火の品種は主に「肥の豊穂木」。

台木に「カラタチ台」という品種を使用するのが一般的でしたが、それを「ヒリュウ台」という台木にかえることに挑戦しています。

「ヒリュウ台」の台木は、細い根（細根）が多いのと木全体が大きくなりすぎない（矮性）ところが特徴です。細根が多いことから養分を多く吸うことができ、糖度が高くなり酸が下がりやすい木になります。秀品率が上がり、高単価時期にデコポンを出荷できることが期待されます。また、ヒリュウ台は矮性という特徴があるため、園芸ハウスでの栽培も可能となります。JA鹿本管内では園芸ハウスで栽培を始める農家も多く、高さ3m以下のハウスでの栽培も多く見られます。

### 台木で差をつける

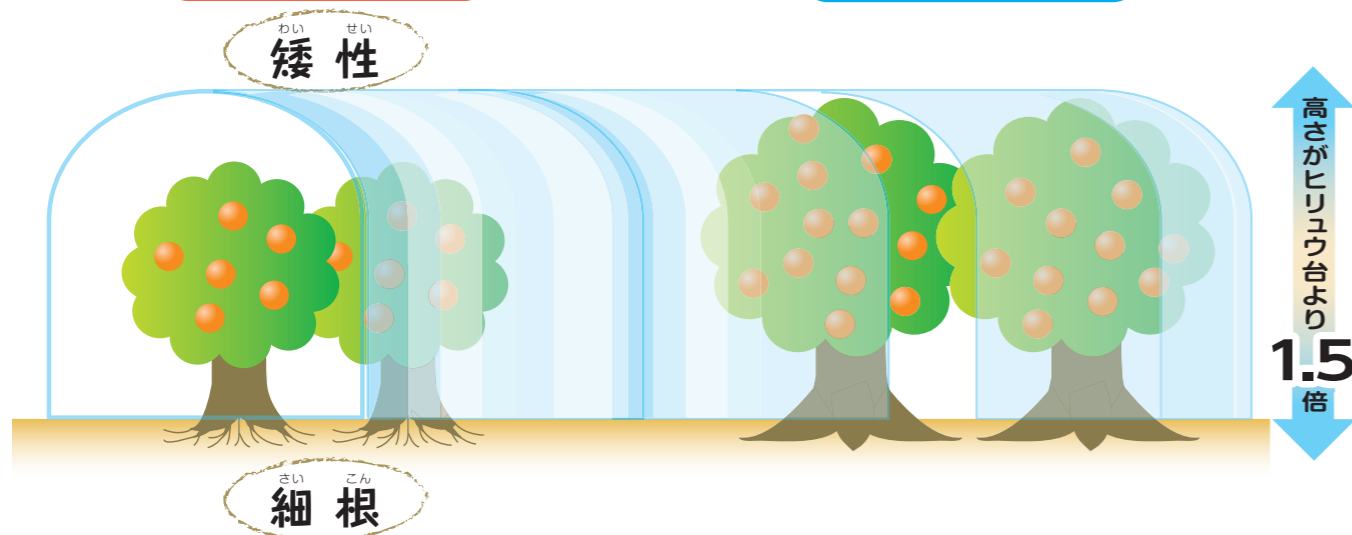
# 高単価を狙って挑戦

デコポンはJA熊本果実連が所有する登録商標です。  
JAに出荷される「不知火」のうち、高品質を保つ一定の基準（糖度13度以上、酸度1%以下）をクリアしたものがデコポンとなります。  
その他、デコポンにはこだわり商品があり、糖度14度以上、酸度1%以下のプレミアムデコポン、贈り物に最適な葉付デコポンなどがあります。



みかん部会デコポン専門部は32人で12haのデコポンをハウス栽培しています。デコポンは熊本県のほか、愛媛県等全国で栽培されています。JA鹿本では所得増大を目指し、秀品率を上げ高単価時期に出荷ができるよう取り組んでいます。（表1）

ヒリュウ台の場合



カラタチ台の場合

表1

